



学校だより

令和2年 11月30日

No.9 12月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

「できる、わかる、学ぶ、覚える、身に付く、理解する」

副校長 井上和浩

小学校3年～6年までの4年間、近所のそろばん塾に通っていました。毎週月・水・金の3回、夕方6時30分から8時までひたすらそろばんをつかって計算の練習です。よりはやく、より正確に計算ができるように格闘していました。左手でそろばんを押さえて固定し、右手の人差し指と親指でぱちぱちとそろばんをはじいていました。おかげで数への感覚みたいなものが育ちました。

8級から1級、1級の先は初段、2段、3段・・・と上がっていく仕組みだったように記憶しています。目標は初段に上がることでした。級に合格するとそろばんにはるキラキラのシールがもらえ、それをはるのが楽しみでした。初段以上のシールはサイズが一回り大きくなり光沢付きでした。塾では掛け算・割り算・見取り算・暗算・伝票算・応用算がありましたが、その中で暗算が苦手でした。「頭の中にそろばんが入れば大丈夫。」と塾の先生は言っていました。つまり、そろばんがイメージできれば簡単だよという意味です。今で言う「エアーそろばん」です。そろばん塾に通っているうちに、ある日突然「できる」ようになりました。

実はもう一つ苦手がありました。応用算です。ある金額を金利いくらで何か月借ると返済額はいくらになるかをそろばんで計算するのです。というのは「元利合計」とか「利息」という言葉の意味が全くわからなくて、四苦八苦していたからです。計算のパターンに当てはめてなんとなく問題を解いていました。ところが5年生のある時、急に利息とか元利合計の意味が実感でき「そういう意味か」とまさに「わかり」、その時から苦勞しなくなりました。

「できる、わかる、学ぶ、覚える、身に付く、理解する」様々な表現があり、無意識に使い分けています。「わかった？」と子どもたちによく聞いている場面も目にします。本校では保護者の皆様に11月20日から授業参観をしていただいておりますが、授業を通し、子どもたちは学習の内容をどのようにわかり、理解して身に付け、自分の成長、よりよい生き方や友達・社会との望ましい関わり方につなげていくのでしょうか。そのために学校や社会はどうあったらよりよいのか。答えはすぐには見つかりません。ぜひ一緒に考えながら子どもたちのために行動できればと思っています。

ちなみにわたしのそろばんの目標は、6年生の3月に達成することができました。